環境パートナーシップちば

# だより

— つながれ ひろがれ —

Vol.21　（領価200円）

編　集　環境パートナーシップちば
代　表　横　山　清　美
事務局　千葉市中央区中央港1-11-1
（財）千葉県環境財団 環境学習推進室内
電　話　043－246－2180
ＦＡＸ　043－246－6969

## 第二回エコサロン
## 「環境の心―宮沢賢治と水質改善」

８月 17 日金曜日、環パちばの第二回エコサロンが開かれた。今回お越し下さったのは、千葉県衛生研究所、水質保全研究所で 31 年間の経験をもつ小林節子さん。今年３月に早期退職され、現在はＮＰＯ法人「環境文明 21」、「環境イーハトーブの会」で活動をされている。仏教や日本の食文化にも強く着目し、我々が良く知っている宮沢賢治の作品から、現代人が失いかけている“ 環境の心 ”を熱く示して下さった。

**1　環境の心「環境倫理」とは？**

従来の倫理は、人間と人間の間だけの“ 狭い ”倫理であるのに対し、「環境倫理」は南北間倫理（国、地域同士‥）、世代間倫理（将来へ‥）、生き物倫理（地球上すべての生き物に‥）つまり、空間、時間、生態系と３つの視点が必要である。

また、環境問題を解決するためのキーワードは「技術」「社会制度」「価値観」「循環」「共存」「抑制」と六つあるが、環境倫理は「価値観」にあたる重要な部分である。

では、どんな「価値観」を作って行けばいいのだろうか。まず、日本人の思考の特徴はもともと持っていたものに、外来した仏教が溶け込み混ざり合ってできたもので、①集団思考、②現世利益、③感覚的で情緒的、④シャーマニズムの要素がある。環境破壊の背景には、そんな日本人の特徴からも引き起こされた部分もあるだろう。個人の本音を大事にし、利益にとらわれず、自然の生態系を中心にすえた考え方を“ 論理的 ”に示していくことが大切である。

**2　印旛沼や手賀沼の水質汚濁の調査研究に携わって**

水は川→海→雲→雨→川‥と循環され、生態系を造る大きな要素の一つと考えれば、多くの生物が住み育める水が理想である。その理想の水をつくる上で重要なことは、しっかりと環境基準達成までの道筋を定めること、水質浄化施設の効果の評価と維持管理、また下水道と浄化施設は違う管轄でやるというような縦割りの弊害をなくすこと、そして市民の積極的参加である。

手賀沼の事例では、行政側のビオパークの提案に対し、市民・研究者が反対し、代わりにビオトープを作りあげた。手賀沼の再生事例で、もう一つ注目したいことは、潜在自然植生を回復後の目標としている事である。潜在自然植生とは、昔からそこに生えていた植物で、一番その土地の環境、生態系にあっている。新しいものを持ち込むのでなく、土さえもその場所のものを使うとよい。手賀沼ビオトープでは、湧水を作るため掘り返した土から眠っていた種が目を覚まし、植生が一部復活している。

**3　宮沢賢治の作品にみる“ 環境 ”の心**

賢治は生前出版した唯一の童話集**「注文の多い料理店」**の最後でこう述べている。

「‥‥‥これらのちいさなものがたりの幾きれかが、おしまい、あなたのすきとおったほんとうのたべものになることを、どんなにねがうかわかりません。」

賢治の童話の中には、いくつもの環境倫理の答えが隠されている。ここではその一部を紹介する。

**・「銀河鉄道の夜」**

銀河鉄道は死後の世界である。ジョバンニは（賢治は）タイタニック号で海に沈んだ女の子にこう言った。「天上へなんか行かなくたっていいじゃないか。ぼくたちここで天上よりももっといいとこをこさえなきゃあいけないって･･･」

今生きているこの世界に理想の世界（イーハトーブ）をつくろうとすることの大切さ、また、キリスト教徒である女の子が南十字星で降りることは、異文化の尊重につながる。

**・「なめとこ山の熊」**

猟師の小十郎は生活のために熊を獲る。熊は町で安値で売られ、また獲られる。何度も繰り返し、最後は小十郎は熊に殺されてしまう。だが、熊たちは死んだ小十郎の周りに集まり、ずっと動かなかった、と物語は終わる。共生とは厳しくともお互いに敬意を持つことであり、また、地方への愛情と知識が感じられる作

品でもある。

・「よだかの星」

「ああ、かぶとむしや、たくさんの羽虫が、毎晩僕に殺される。そしてそのただ一つの僕が今度は鷹に殺される。それがこんなにつらいのだ。ああ、つらい、つらい。僕はもう虫をたべないで飢えて死のう。いやその前にもう鷹が僕を殺すだろう。いや、その前に、僕は遠くの遠くの空の向こうに行ってしまおう。」

生態系の食物連鎖を描いたこの話は、逃避の物語ではなく、問題に向かい合って解決していこうという姿勢を表したものと、小林さんは解釈している。

・「雨ニモマケズ」

賢治が病床で書いた「雨ニモマケズ」は、詩というよりも、むしろ賢治の“祈願”であり、曼陀羅などたくさんの信仰と共に手帳につづられていた。

ここでは法華経の智慧と慈悲に注目したい。

「ヨクミキキシワカリ　ソシテワスレズ」

智慧は道理をみる事であり、環境ならば「自然の法則の不変性」をみることである。原因、結果、原因、結果・・でみていくと、すべてが繋がっていく。

「東ニ病気ノコドモアレバ行ッテ看病シテヤリ、・」

慈悲とは、相手の立場にたつ精神で、環境では生き物の立場に立つ事である。小林さんはそれが“環境をやりたい”理由だと語られた。

最後に、環境教育に賢治の作品をどう生かすかという質問に、子どもたちはただ読むのでなく、みんなで読み合い、劇などで体験することも大切で、大人は変わらないぶん、次世代を担う子ども達のこころを変えていきたいと閉めくくられた。

# ＮＰＯ活動の推進について

千葉県環境生活部環境生活課　ＮＰＯ活動推進室長　　岩　下　豊　久

今年度は20年ぶりに新知事が誕生し、通常４月１日の県庁職員の異動時期がずれることとなりました。私は男女共同参画課１年でしたので、異動はないと勝手に思いこんでいましたが、４月23日に部長室に呼ばれ、26日付けで「環境生活課ＮＰＯ活動推進室長」へ異動の内示が出たと告げられました。

県職員として大変恥ずかしいことではありますが、堂本知事がNPO法成立の立役者であり、ＮＰＯ活動の推進が選挙の公約であったと知ったのは何日か経ってからのことでした。４月26日には環境生活課の片隅に私を入れて４人体制の「室」ができました。担当者の２人は、朝から晩まで、法人認証の申請受付と相談に明け暮れていました。知事からは、懇談会やサポートセンターの設置、６月県議会に向けてのＮＰＯ立県宣言、ＮＰＯフォーラム千葉県大会などの宿題がでていました。そのほかにも実施しなければならないことが多くあり、しかも新しく考えなければならないことばかりで、とても消化できる状況ではありません。これまでは年度途中の職員の増員などは考えられないことでしたが、思い切って増員の要望を出し、ありがたいことに８月１日に３人の増員が認められ、今年度何とか乗り切れる体制ができて安堵いたしました。

さて、当面の当室の業務として、「ＮＰＯ活動推進懇談会」を立ち上げます。８月末日まで、委員のうち６名を公募しました。昨今、公募といっても極当たり前のように思いますが、委員会や懇談会の委員を公募するのは県としては初めてのことです。20名位の応募があるかなと予想していましたが、61名の応募があり、県民の関心の高さに驚いています。今月半ばには公募委員を含め委員を決定して、９月20日に懇談会を開く準備をしております。（この記事が掲載される頃には既に開催されていますね。）懇談会で討議されたことは、さらに県民の意見を聞きながらまとめていきたいと考えております。

また、今年がボランティア国際年なので、10月６日（土）に千葉市で、７日（日）に松戸市で、内閣府と千葉県の共催で「ボランティア国際年記念シンポジウムちば」を開催します。ＮＰＯで実行委員会を組織してもらい、内容を詰めてきました。実行委員会及び協力団体の皆さんに感謝申し上げるとともにすばらしいシンポジウムになることを祈念しております。

今、一番頭を痛めていることが、「（仮称）ＮＰＯサポートセンター」設置の件です。秋には県庁舎の２階にオープンしたいと思っていますが、使用できる日時に制約がある中で、管理運営まで県でしてしまうと、サポートセンターの意義が半減してしまうことになりかねません。県庁内であっても管理運営をＮＰＯに委託できないか検討しています。急いで設置するよりもできるだけ本来の機能が活かせるようにしたいと考えております。県のホームページでも意見を募集します。

年明けの２月頃には「ＮＰＯフォーラム千葉県大会」を開催する予定です。この大会を、県の各部局とその部局に関連あるＮＰＯとが顔合わせや意見交換ができる場、また、各市町村にＮＰＯの活動への理解を深めてもらう場としたらどうかと考えております。

そのほかにも細かい重要な事業もいろいろとあります。いずれにせよＮＰＯ活動を実践している皆さんに喜ばれない事業をしても意味のないことです。そのた

めに、県民の皆さんの意見を確認しながら、事業を進めていきたいと考えております。これまで以上のご助言とご支援、御協力をお願いいたします。
（問い合わせはＮＰＯ活動推進室：043-223-4133）

## 県主催 三番瀬シンポジウム 開かれる

８月 23 日市川市民会館において、千葉県主催で第１回目の「三番瀬シンポジウム」が開催されました。第１回のこの日は、広く県民の声を聞くと言うもので、20 名の人たちが意見を述べました。地元の船橋・市川・浦安市に限らず東京からもそれぞれの立場･視点からの問題提起を行い､約 350 名の来場者耳を澄ませていました。

当団体会員の田久保晴孝さん（三番瀬をまもる会）は「東京湾奥部の船橋市沖から市川市行徳沖に残された湿地､三番瀬は東京湾で残された数少ない水鳥類の生息地である｡約 1200ha の浅瀬域は東京湾の浅瀬の鳥類相を保存しており、国際的にも少ない貴重な湿地である。私たちのグループでは 1992 年から 1999 年まで陸上からの調査を約 200 回行い、約 175 種類の鳥類を確認している｡特にスズガモなどの等のカモ類､シギ・チドリ類、カモメ類、アジサシ類の個体数が多く、国内の湿地の中でも類例を見ない規模の水鳥の渡来地でラムサール条約の基準を十分に満たしている。…（中略）…国内の湿地では、水鳥類が数多く生活していた。湿地の開発により水鳥類の個体数は減少し続けている。開発の結果、住宅地、工業団地、農耕地、公園が完成しても、水鳥類の個体数は回復しなかった｡従って三番瀬も鳥類生態調査を行うと共に埋立てをしないで現状の干潟や浅瀬を維持することが現在最良の保護対策である。」と述べました。

全員の発表と海上からの発言が終り、最後に堂本知事は「今回および次回のシンポジウムのご意見を十分に検討の上、三番瀬に対する最も良い方向性を出してゆきたい」締めくくりました。

９月７日同会場にての２回目は、県職員によるサンフランシスコ湾の視察報告や、環境省担当者・学識経験者らによるパネルディスカッションに約 400 名が参加し三番瀬のあり方が討論されました。
（田久保さんに発言内容を提供頂きました。大西）

### 環パちば主催学習会

## 「どうしても減らないごみ」

８月 26 日千葉市生涯学習センターにて､環パちば主催の学習会「どうしても減らないごみ」が行われ、25 名の参加者があった。当日は下記４名によるパネルパネルディスカッションのあと、高校生の環境学習体験報告、また各自がごみ減量にどう関わっているかを話合った。

井上健治氏：ごみゼロネット千葉 21（ＧＯＮＥＴ）を立ち上げた。ごみ減量とともに、有害ごみ（蛍光灯や体温計）の分別回収が８％と低いことも取上げていく予定である。

上田真佐江氏：幼稚園に台所ごみを持寄りコンポストで堆肥化､その堆肥を使って園庭で野菜を作っている。会報でお母さん達にそのことがごみ減量だけでなく健全な生態系にも役立っていることなどを訴えている。

深尾秀次氏：中学校の理科部会でごみ問題の授業を行い、その後子ども達とごみ拾いのボランティアを行った。子ども達は多くのことを感じてくれたようで、大人には期待できないが、若い世代は楽しみである。

小野朗氏：昨年、店舗、市民を対象にしてレジ袋に対する意識調査をおこなった。その結果、マイバッグはごみ減量に効果がある、コスト削減になるなど肯定する人が８割弱であった。レジ袋はごみ問題の切口の一つであると思っている。

ついで、深尾氏と共にごみ拾いの体験をした現高校生達が、稲毛駅前と動物公園でのゴミ拾いに参加し、見えにくい場所などに多くのごみが捨てられているのに驚いた、拾っているのを見て、ポイ捨てをやめた人がいた、これからもこのような行事に参加したい、皆さんのように勉強されている方が小中学校に出向いて子ども達に接触して欲しいなどと発表した。

ごみ問題の解決には一人一人の生活の見直しが必要だが、紙と生ゴミの始末だけでもごみの減量は大幅に進む。今回の皆さんの実践を基に、行政に提案していけるよう、広く取り組んでいきたい。（事業部　田口）

*「大堀川の水辺をきれいにする会」の活動*

# 大堀川に魚がもどってきた！！

寺 尾　直 宏

大堀川は流山市の東部を源として柏市のほぼ中央を東に向かって流れ、手賀沼に注いでいる小さな都市河川です。この川が経済成長期に都市化により激増した周辺の家庭からの生活排水を運んで、手賀沼の水質を悪化させた元凶とされています。かって、川の水が不快に濁り悪臭を放っていたのは事実ですが、下水道の普及・れき間浄化施設の改修に併せ利根川の水を利用する北千葉導水路からの注水により、現在は一気に環境は改善され、今では市民に親しまれる川に変貌してきています。

**ひどかったころの大堀川**

５年前、大堀川が手賀沼に注ぐ辺りの両岸に、柏市が広々とした緑の公園を造ったにもかかわらず、目の前の川は溜まったヘドロに自転車が打ち捨てられ、岸にはゴミが散乱してそれは見苦しい情景でした。汚れたところにさらにゴミが捨てられるという原理が将に証明されたような状況でした。あまりのひどさに行政に訴えても市や県の担当部門に川の美観を守ろうという姿勢がまったく感じられませんでした。

大堀川で魚取りを体験！この網は寺尾さんご夫妻の手作りだそうです

**平成９年、清掃活動開始**

平成９年の正月に、岸に立て札を立てて市民有志によるゴミ除去作戦を呼びかけたところ、十数人の協力者が現れ、関係機関との調整や道具づくりなどの準備を進めました。３月 23 日の作戦実施日は 80 名の市民が集まって 1.3ｋｍの両岸を清掃し、44 台の自転車を引き上ました。新聞も「立ち上がった市民」という言葉で取り上げてくれました。この時参加した市民の中から「翌年もやろう」という話が出て、その企画・準備をするグループがこの会の始まりです。

**大堀川をきれいにする会の活動**

翌年の清掃活動は、役所から借りたゴムボートの活躍と協賛企業から食べ物や飲み物の寄贈で大いに盛り上がりました。その実績からその年の柏市市民活動助成の適用を受け、会としてゴムボートや胴長靴・掬い網等を購入し、以降は自前の道具で活動しています。また、市民の川に対する関心をもっと高めてもらおうと、活動内容を広げて次のような作業を続けています。

a)　春（３月下旬頃）に大堀川下流付近の水辺の清掃
b)　夏（８月初め頃）に生き物調査と水質調査
c)　秋（１０月下旬頃）に岸辺の土手を耕し花の種まき

夏の生き物調査は千葉県環境部水質保全課が毎年行う「水生生物による水質調査」に合わせて実施し、調査結果を報告します。秋の種まきは「柏市みどりの基金」の支援を得て行い、翌年の春から夏にかけポピーや矢車草など色鮮やかなワイルドフラワーの花々が土手に沿って咲き乱れて、散歩する人々を楽しませています。

**この夏の生き物調査でオイカワ、モツゴも**

第４回目となったこの夏の生き物調査では、特製の網を作り子供たちを交えて川にいる魚を調べようと企画しました。比較的水質の良い支流が合流する地点に網を張り、コイ、オイカワ、モツゴ、ヌマエビ等を捕ることができ、子供も大人も大喜びでした。オイカワや、モツゴがいたことはそれだけ水がきれいになったということです。子供たちに川という自然に親しんでもらうこともこの会の目標の一つです。

**行政とのパートナーシップ**

このような私たちの会の活動は行政も認めていて、例えば柏市主催の「まちづくりシンポジウム」（平成 12 年２月）のパネリストに呼ばれるなど行政とのパートナーシップはできてきています。市民の自発的な活動を行政が陰で支えるという図式が、活力ある市民生活の姿ではないかと思っています。

## スピーチとトークの集い

# 「ドイツにおけるゴミ環境事情」

御宿町リサイクル「かもめ」　永 島　輝 代

Dr.ヘルベルト・デルンバッハ氏と初めて遭ったのはもう９年も前、「かもめ」の古切手のリサイクルを通して、氏がコレクションしているので是非わけて欲しいと言う話からスタートした。氏はドイツ・ハンブルグ州の環境担当の職員で、専門ドクターであることで話も弾み、奥さんが御宿町出身で３年毎に御宿を訪れる度に、ハンブルグで発行した資料を抱えて来てくれ、ドイツの環境事情について聞かせていただいた。

今回は、帰国まで 10 日間あることから、思いきって貴国の先進的な環境事情を我が地域の人々に話して欲しいと切出し了解を得て、8 月 24 日午後７時から御宿町役場の会議室を開放して貰い、開催まで正味４日、町行政も巻き込んで大車輪をかけた。ドイツ語、英語の通訳も用意。環境先進国ドイツの生のスピーチとトーク交換が魅力で、予定の３倍の出席者で大盛況であった。

ハンブルグ州は人口 165 万、11 の行政省があり、その中で環境セクションは４部、氏の属するゴミ環境部は 47 人のスタッフが専属で働く。むろん、水も大気も重要なセクションである。環境に関する法律は目下 EU のルールが主力であるが、本年度中にドイツがイニシアティブをとる方向で EU 全体がネットワークされる予定と言う。

ドイツも 1997 年までゴミは廃棄を基本としていたが、４年前に減量・循環型に法改正され、ゴミはパッケージ、タイプ毎に細かいルールが決められ、回収・廃棄には市民は勿論、企業、販売者にまで厳しい規律が敷かれ、行政によるチェックとコントロール体制がある。各企業には特別権限を持ったゴミ環境スタッフが配置され、企業内でチェックもされている。ザル法

にならず、しっかり機能させてゆく点は大いに学ぶべきと感ずる。ハンブルグで４年前からスタートした「プロジェクト 50／50」は、学校、公共施設等でごみ減量の達成度に合せて浮いた予算から 50%を報償するシステムで、如何にもドイツらしい合理主義と思う。むろんリサイクル、減量は財政削減につながり、このプロジェクトは水、省エネにも適用されている。

環境教育は幼児期からスタート、小学校では自主カリキュラムの基に体験学習も積極的に取入れられている。しかし、モデルになるのは先ず親達、大人が先ずルールを守り手本を示すことだ。これは何処の国も同じようだ！

氏はルールに縛られることは私自身好きではない、ルールなど無くても地球を大切に出来る日が早く来るよう望みたいと言われる。

スピーチ後のトーク交換も活発で、３年後私たちも頑張ってお目にかかりましょうと約束し、予定時間がまたたく間に終了した。

# ☆ふるさと市原の環境もんだい☆

佐 久 間　隆 義

皆さんこんにちは、市原市に住む佐久間隆義です。

堂本さんは知事に就任されてから二度も私たちのふるさと市原を訪れて下さいました。　用件は文化、それも負の文化の現場視察なのでした。“ 子供の国 ”の 30 周年記念イベントの４月 28 日と、“ いちはら市民まつり ”が行われていた８月５日の夜、２度目のこの時はちょうど房総での「菜の花県民会議」の帰りみちであったということですが、火災事故の一報を聞きすぐさま現場に急行されたと聞きました。堂本さんのフットワークの良さに感謝です。しかし文化に触れ愉しむべき日に産廃の火災事故が連続して発生し堂本知事さんに一度ならず２度までもお越し頂くとは市原市民として恥ずかしい限りです。どちらも建築廃棄物の自社処分場での出来事ですが、その他にも私たちの市では環境関連法の施行以前に埋め立てられた環境ホルモンの河川への滲出、数多くの眼に余る産廃の不法投棄、そして野焼きの問題や廃ガス等の大気汚染問題が山積しています。かつて東京湾を埋め立て臨海工業地が造

成され千葉の経済は潤い、今日の目覚しい発展をもたらしましたが、40 年前にはまだ環境（公害）問題が社会を大きく揺り動かす事も少なく、今の三番瀬問題の様な議論も無く経済成長至上の勢いでした。そのような社会情勢のもとで、京葉臨海工業地帯の草分けとしての市原市は造成後の海辺の水際線を市民の自然との触れ合いの場やいこいの空間として利用することなど思いも浮かばなかったのでしょう。豊かであった干潟の海岸線は工場の専用岸壁になって誰も近づけません。私の子供のころの想い出、潮干狩り、あさりや蛤を取り蟹に指を挟まれた痛み、あの海のにおい、あの遠浅な干潟浜は……今は昔になってしまいました。今あらためて三番瀬のことを考え、我がふるさとの浜辺の命運を想う時、残された貴重な自然を守り、河川や旧海岸線をうまく利用した水辺公園や河口浜辺の整備の大切さを切に願います。日本の自然の多くは市民の生活と隣合わせで、何もせずにほって放って置くと荒廃する例も稀ではありません。

また一方で、適切な市民生活を維持するには道路の整備や公共設備の充実も避けて通れない課題です。自然保護の名のもとで何でも反対では解決になりません。限られた国土を活用するためには今こそ技術の粋と英知を集めて自然と折り合いの付けられる環境に優しい開発を真剣に考えなければならないと思います。千葉県の出先機関であった公害研究所は環境研究所に改名、さらに廃棄物情報センターと合併し、現在、環境研究センターとして市原市で活動しています。公害問題を世界に先駆けて解消させたわが国、その先鞭をつけた市原市、環境と折り合う新しい発想の開発のあり方を実現するための技術開発に向けてふるさと市原、頑張れの声援を送りたいと思います。

---

千葉県環境研究センターから

## 公開講座のお知らせ

小 倉　久 子

平成 13 年４月に、千葉県の環境生活部の３研究所が組織統合によって「千葉県環境研究センター」になりました。新しい形態になってから、エコパーク（６月 24 日）、環境月間の施設公開、エコマインド養成講座、環境カウンセラー研修会（８月 25 日）などで、すでにセンターにおいで下さった方も多いと思います。10 月からは、公開講座を開催することにいたしましたので、ぜひご参加ください。

原則として、毎月１回（土曜日の午後）、市原の新館（旧廃棄物情報技術センター）研修室で、当センター職員による講義を行う予定ですが、第１回（10 月 27 日）および第２回（11 月 10 日）は、施設見学と外部講師による講演です。（詳しくは、同封のテラシをご覧ください。）12 月以降のプログラムについては、決まりしだい当センターのホームページ（http://www.wit.pref.chiba.jp/）などでご案内しますので、どうぞご覧ください。また、公開講座でとりあげてほしいテーマなどのリクエストやご意見もお寄せください。たくさんのお申し込みをお待ちしております。なお、公開講座の開催に伴い、これまで第２、第４土曜日の廃棄物展示コーナーの開館を、公開講座開催日の土曜日のみに変更させていただきますので、ご了承ください。

お問い合わせ：千葉県環境研究センター　企画情報室　E-mail：kyy03517@nifty.ne.jp
TEL：０４３６－２４－５３０９（展示コーナー）　FAX：０４３６－２３－２８７０

## ☆エコマインド講座日記☆(二日目)

広 田　ゆ き え

７月 11 日（水）会場：青葉の森芸術文化ホール　内容：自然の不思議・しくみとその学び方、音と生活

私の申し込んだ平日コースの初日は参加していないので、平日は今回が初顔合わせでした。やっぱり、アイスブレーキングに参加していないとちょっと打ち解けにくいような・・・と思ったのもつかの間、広い公園内で班に分かれてのネイチャーゲームで、同じ班になった方々の親切にふれると、緑の中の開放感も手伝っていい感じになってきました。担当の山口さんの、ワンポイント講座がとくに楽しかったです。ネイチャーゲームって面白い！

午後は、前回に引き続き石井先生の講座でした。最初に、いくつかアイスブレーキングを体験したのですが、今までで一番の盛り上がりになりました。「物まね」というプログラムです。石井先生がマレーシアで教わったアイスブレーキングだそうで、最初に小さな紙をもらい、そこに書かれている動物の鳴き声を目隠しした状態で真似しながら仲間を探す、というものです。恥を捨てて、私はカラスになりました。「カー！カー！カー！」まわりでは、「モーモー！」「ワンワン！」「ニャーニャー！」などと聞こえてきます。仲間同士がしっかり手をつないだり、肩を組んだり・・・なんだか即席に仲間が出来るってスゴイことです。環境関連のお友達が出来るということは、２年前の私にとっては考えられない事でした。今回のエコマインド講座、とっても楽しい予感です。

お知らせ

# 環境シンポジウム2001千葉会議

## 拓こう 環境の世紀 私たちの手で

主催：環境シンポジウム２００１千葉会議実行委員会、千葉県環境財団
後援：千葉県、千葉市　その他　市民団体、企業　ｅｔｃ
＊「環境パートナーシップちば」は、環境シンポジウム千葉会議を応援しています。

**日時　２００１年１０月２１日（日）１０：００～１６：４０**
**会場　富士通幕張システムラボラトリ（　千葉市美浜区中瀬　）**
**参加費　５００円（当日受付にて）**

「環境シンポジウム千葉会議」は、市民・企業・行政が手をつなぎ、環境学習と環境保全を推進することを目的としています。今年で７回目。私たち１人１人が変わるために、今年もシンポジウムを開きます。

特別講演：千葉県知事　堂本　暁子―「環境先進県ちば」をめざして

分科会テーマ　＜第１分科会＞異常気象激発！温暖化を私たちはどうする？
＜第２分科会＞どうして減らない「ごみ」!!
＜第３分科会＞生物多様性と私たちの暮らし
＜第４分科会＞広げようつなげよう環境学習のネットワーク
＜第５分科会＞「環境」を豊かにするまちづくり
＜第６分科会＞れっつ☆あくてぃぶ　(学生のみなさんへ)

分科会では、事例発表や参加型学習を通して、各テーマについて、参加者が自由な立場で話し合います詳細の内容、申し込みについては、『環境シンポジウム２００１千葉会議実行委員会事務局』までお問い合わせください。
ＴＥＬ：０４３－２４６－２１８０　　ＦＡＸ：０４３－２４６－６９６９　Ｅメール　ecogksyu@fancy.ocn.ne.jp

ホームページ　http://www.geocities.co.jp/NatureLand/5021/

環境のお祭りだよ！みんなでつくろう、楽しもう！！

# エコメッセちば2001 ｉｎ幕張新都心

**エコバザール・エコ展示**
**日時：１１月３日（土）４日（日）１０：００～１６：００**
**会場：幕張新都心（海浜幕張駅前広場）　　入場：無料**

●リサイクル品・エコ商品の展示と販売～クイズで商品がもらえるよ！～
●市民・企業・行政の環境保全活動や対策の紹介～太陽光発電～
●エコ体験・工作教室　　●テーマコーナー「ちばの水」

**賛同行事**（幕張新都心の各所での催し）

10/26　企業環境ｾﾐﾅｰ/環境カウンセラー千葉県協議会千葉県商工会議所/13：00～17：00/会場：ｼｬｰﾌﾟ幕張ﾋﾞﾙ
10/30　ｴｺﾊﾟｰｸのエコアップ/幕張ﾍﾞｲﾀｳﾝにｴｺﾊﾟｰｸを作る会・幕張ﾍﾞｲﾀｳﾝ自治会/10：00～15：00/打瀬ふれあい緑地
11/4　こども環境会議ちば 2001/千葉県・地球環境平和財団
11/4　エコレストラン/13:00～17:00/会場：幕張新都心のホテル６社のレストラン
10/21　環境シンポジウム 2001 千葉会議/実行委員会・(財)千葉県環境財団/会場:富士通幕張システムラボラトリ
11/4　環境ウルトラクイズ/幕張新都心まちづくり協議会/会場：エコステージ
11/10　ﾍﾞｲﾀｳﾝ・ﾌｫｰﾗﾑ Vol.４/ﾍﾞｲﾀｳﾝ自治会連合会ﾍﾞｲﾀｳﾝ実行委員会/13：00～/ｸﾞﾗﾝﾊﾟﾃｨｵｽ公園東の街集会所
11/5　ＷＢＧアトリウムコンサート/三井不動産㈱ＷＢＧオフィス/12：15～13：00/会場：ＷＢＧアトリウム

## お知らせコーナ

### 第 3 回「エコサロン」
### 「日本のソフトエネルギーの今後と個人風力発電の可能性」

日時　10 月 19 日（金）午後６時 30 分から
場所　船橋女性センター第一会議室
講師　井田均さん
（日経新聞記者・市民エネルギー研究所）
定員　40 名　資料代　500 円
第 4 回 12 月 14 日（金）時間場所同上
村山和彦さん（まちづくりコーディネーター）
演題「地域通貨の可能性―――楽しいコミュニテイと生活を編み上げる　西千葉商店街を事例として」
申込み先：事業部　平松南
Tel：090-2658-5093　Fax：047-375-2987
Ｅメール：minami@cba.att.ne.jp

### 千葉県ＮＰＯ活動推進懇談会へ意見募集

横山が千葉県ＮＰＯ活動推進懇談会委員になりました。この懇談会は、「ＮＰＯ推進センター」を年内に設置するため、急いで提言をまとめるものと思われます。回数は少ないでしょうが、皆様に推進やセンターについてのご意見をいただき、提案していきたいと思います。FAX：047-353-8134 か　E-Mail：k-yoko@pop21.odn.ne.jp にて、皆様のご意見をお待ちしています。（横山清美）

### ドキュメンタリーフィルム「神の子たち」

11 月６日（火）より東京都写真美術館ホールにてロードショー決定、ＪＲ恵比寿駅東口徒歩約７分
ホームページ：http://www.kaminoko.com/
前作「忘れられた子供たち／スカベンジャー」から６年、2000 年 7 月に起きたフィリピン・パヤタスゴミ捨て場崩落事故から４ヶ月、極めて困難な生活環境のゴミ捨て場で生活する３家族を軸に、日本人が忘れてしまった「家族の絆」「生きる誇り」の大切さを描いたドキュメンタリーフィルムです。

### 環境教材「オゾン層ってなんだろう？」

オゾンは地球の宇宙服。イラストをふんだんに使って、オゾンの地球を守る仕組みから、オゾン層破壊の現状、有害紫外線の影響と対策までわかりやすく解説しています。小学校高学年から大人まで。
頒布価格；500 円（送料別）
申込み：ＮＰＯ法人　ストップ・フロン全国連絡会
TEL；045-827-2526　FAX；045-827-2527

### 千葉県環境学習情報「エコマインド 2001」

千葉県の環境学習施設、今年度の環境講座予定、行政の環境担当窓口など環境学習を展開したい人にはとても貴重な情報が載っています。御入用の方は下記へ。（送料はご負担ください）
（財）千葉県環境財団　環境学習コーナー管理室
E-Mail：murama01@clis.ne.jp
Tel：0471-40-8604　Fax：0471-40-8601

### 原稿募集

「環パちば」だよりに地域の情報や話題、談話室向けの随想、などをお寄せください。

### ホームページ

「環境パートナーシップちば」のホームページが立ち上がりました。まだ、工事中のところもありますが、イベントの紹介や今年度の活動計画なども記載されています。ぜひ、ご覧下さい。また、お知りあいの方にもお知らせしてください。
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

### 編集後記

はじめまして、エコサロンの記事を担当させてもらっています広報の渡辺です。僕は現在千葉工業大学の鎌田研究室でまちづくりの研究をしています。今度でだよりにかかわるのは３回目です。宮沢賢治の話など、今回のエコサロンは僕の好きな話題でとてもためになりました。毎回録音したテープから原稿を起こすのですが、出来るだけありのままにお伝え出来ればと思って頑張っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。（渡辺）

（古紙 100％使用）

**「環境パートナーシップちば」**は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと，相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。
申し込み先：千葉県環境財団
TEL:043-246-2180FAX:043-246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872

### ＜環境パートナーシップちば＞
### 入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて入会します
（該当するところを○で囲んでください）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏 名 | | 入会年月日 | |
| 住 所 | 〒 | | |
| ＴＥＬ | | ＦＡＸ | |
| 年会費 | 個人 1,000 円　団体 2,000 円　賛助会員 5,000 円 | | |